



2025 年 8 月 25 日

報道関係者 各位

日本製薬工業協会

製薬協 第 3 回（2025 年度）「研究者支援・助成に係る公募」について

日本製薬工業協会（以下、製薬協）は、第 3 回（2025 年度）「研究者支援・助成に係る公募」を実施することといたしましたので、お知らせします。

製薬協では、保健医療全体のあり方に係る学術研究を牽引している有識者らに参画いただいた「健康寿命延伸と経済成長牽引に関する研究会」の提言に基づき、医薬品の分野にとらわれず、学際的・分野横断的な研究の促進や若手研究者への支援を通じて、今後の日本における医療・健康及び医薬品産業を取り巻く課題解決につながる研究の発展や、「健康寿命延伸」、「経済成長牽引」のためのエビデンスの蓄積に寄与することを目的として、研究者支援のための助成を 2023 年度より実施しております。

公募の詳細については、下記「2025 年度研究者支援・助成に係る公募」をご確認ください。

2025 年度研究者支援・助成に係る公募

https://www.jpma.or.jp/information/industrial_policy/researchsupport/index.html

公募期間：2025 年 8 月 25 日（月）から 2025 年 11 月 10 日（月）まで

参考

健康寿命延伸と経済成長牽引に関する研究会

https://www.jpma.or.jp/information/industrial_policy/research_map/

本件に関する問い合わせ先
日本製薬工業協会 広報部 TEL 03-3241-0374

<参考資料> (抜粋) 2025 年度研究者支援・助成に係る公募要項

【趣旨】

健康で長生きすることは、多くの人々の願いであることは論をまちません。また人々は、国全体の経済が安定的に成長し、持続可能な社会保障システムが担保され、疾病や老後への不安が解消されることも望んでいます。

我々研究開発型製薬企業の使命も、革新的な医薬品の継続的な研究開発と安定的な供給を通して、国民の「健康寿命の延伸」と「経済成長の牽引」に貢献することにあります。

しかしながら、なおも「健康」と「経済」に関わる社会問題は山積しており、特に医療分野においても高齢化による医療需要の増大に対して人口減少に伴う医療提供体制の問題や今後の財政的懸念等、様々な課題があります。

日本製薬工業協会（以下、製薬協）では、医薬品の分野にとらわれず、学際的・分野横断的な研究の促進や若手研究者への支援を通じて、今後の日本における医療・健康及び医薬品産業を取り巻く課題解決につながる研究の発展やエビデンスの蓄積に寄与することを目的として、研究者支援のための助成を実施いたします。

【募集課題】

本公募においては、3つのテーマを設定した「指定課題研究」と、特に若手研究者に向け、医療・健康や社会保障制度、医薬品産業の振興・発展に寄与する経済学、法学、レギュラトリーサイエンス、医療経済評価、政治学等の社会科学系研究テーマを幅広く募集する「自由課題研究」の2項目について募集を行います。

調査や分析、実証研究、ケーススタディ等を基に一般化した議論をするような研究を想定しております。既成の概念にとらわれない、新しい発想に基づくテーマについても歓迎いたします。

(1) 指定課題研究

● テーマ1 「健康寿命の測定、健康寿命に影響を与える要因の分析」

健康寿命に影響を与える因子は、医薬品のみならず、多様に存在します。

例えば医療技術、手技、医療へのアクセスなどの医療に係る部分から、健康増進施策にかかる個々人の生活習慣や健康行動、健康の社会的決定要因に挙げられるような社会的・環境要因など、生命科学に留まらない幅広い「健康寿命に影響を与える/改善する要因」を分析する研究を募集します。

また、「健康」の定義の社会的認識が多面化し「Well-being(ウェルビーイング)」の概念も浸透しつつある中、健康寿命の測定のありかた、どのように健康寿命そのものを定義するのかに関する研究についても本テーマの範囲内として募集します。

● テーマ 2 「健康がもたらす経済へのインパクト」

健康に長生きすることは多くの人々の願いである中、高齢化が進む日本において、健康になることの様々な効果について多面的な研究を蓄積することの重要性は増えています。

そうした中、人々が健康になることの効果は、個々人の就労や社会参画、消費活動等、個別の経済主体への影響、経済活動の集計量の変化など、多様な経済学的観点、社会学的観点から分析することも可能です。

例えば健康と生産の関係性については、昨今の健康経営等に代表されるような、健康状況と労働生産性や就業率、賃金との関係性についての研究も蓄積が進んでいる状況です。また、2022 年度実施の「健康寿命延伸と経済成長牽引に関する研究会」において日本の高齢者の代表的なパネル調査で罹患や家計消費へどのような影響を与えるのか解析した結果、一般的な 14 の疾患の一つに罹患すると、消費額は平均して 10% 低下（2 つ罹患で 20% 低下）することが明らかになっています（※）。

このように、個別の医療技術や介入に留まらない、健康がもたらす経済活動への影響に係る研究を募集します。

（※）「健康寿命延伸と経済成長牽引に関する研究会」～医薬品産業の未来に向けて～
（p.45～p.54 をご参照ください）

https://www.jpma.or.jp/information/industrial_policy/research_map/od4err0000000hsr-att/230427.pdf

● テーマ 3 「国内医薬品産業の競争力・創薬力強化」

日本はアメリカ、スイス、イギリス、ドイツ、デンマーク等と並ぶ世界でも有数の新薬創出国であり、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2025 年改訂版」においても、医薬品産業は我が国の“基幹産業”に位置付けられています。

一方、医薬産業政策研究所の報告によると、世界売上高上位 100 品目において、日本の医薬品創出企業の品目数は 2017 年をピークに年々減り続け、2022 年は最少の 7 品目となりました。2023 年はランクイン数が 8 品目となり 8 年ぶりにランクイン数が増加しましたが、新薬創出において欧米にキャッチアップできていない状況が顕在化しています。

また、抗体医薬品等のバイオ医薬品が世界売上高上位 100 品目中 48 品目を占める中、日本企業が創出した品目数は 3 品目しかなく、新規モダリティによる新薬創出においても欧米に大きく後れを取っています。複雑化・高度化した新規モダリティの開発においては、従来のような垂直分業により 1 社で完結させることは難しく、製薬企業とアカデミア、バイオベンチャー等が協業し、ドメスティックなプレーヤーに閉じない水平分業による創薬エコシステムの構築や、アカデミアやベンチャー等をはじめとしたシーズを社会実装に繋げるための取り組みが求められます。

こうした状況下、喫緊の課題である国内医薬品産業の競争力・創薬力の強化、創薬エコシステム構築やシーズの社会実装等にかかる研究を募集します。

(2) 自由課題研究

テーマ例：医療・健康及び医薬品に関する経済学的調査・研究

医薬品産業を含む健康・医療関連産業に関する調査・研究

医療・健康に係る制度・政策に関する調査・研究

医療・健康とその関連諸領域の学際・分野横断的調査・研究 等

製薬協では、若手研究者等の研究テーマ選定の一助とすべく、〔疾患×0～3次予防〕の2軸をもって先行研究数をカウントし、各疾患、機能ごとに先行研究の多少をマッピング、これによりニーズ充足可否を網羅的に把握する「健康寿命延伸に必要な疾病予防に関する国内外研究の蓄積状況～疾病分類別／予防段階別にみた先行研究マップ～」を公開しています。当マップを参考にさせていただくと共に、当マップ自体を発展させる研究についても歓迎します。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

参考 | 「健康寿命延伸に必要な疾病予防に関する国内外研究の蓄積状況～疾病分類別／予防段階別にみた先行研究マップ～」 | 健康寿命延伸と経済成長牽引に関する研究会 | 日本製薬工業協会

(https://www.jpma.or.jp/information/industrial_policy/research_map/02.html)

※ 指定課題研究・自由課題研究双方ともに、以下の研究は対象外とします。

○生物医学的研究

○個別の医薬品・医療技術についての研究

○医師、看護師、薬剤師等の専門技術に関する研究

○他の公的機関・助成団体から助成を受けた研究と実質的に同じ内容の研究

【対象者】

医療経済、医療制度、医療政策、社会保障政策、医療関連産業政策、その他広く医療・健康に関して、優れた萌芽的研究あるいは独創的研究を目指す個人またはグループといたします。なお、指定課題研究の主たる研究者については、国内研究機関に勤務している研究者を対象とし、自由課題研究の主たる研究者については国内研究機関に所属している院生・博士課程を含む若手研究者を対象といたします。

※ 選考に際して、身分を確認させていただく場合があります。

※ 研究計画書の内容によっては、利益相反（COI）に関する申告書提出をお願いする場合があります。

【研究期間】

指定課題研究： 契約締結日～2028 年 3 月 31 日（最大 2029 年 3 月 31 日）

自由課題研究： 契約締結日～2027 年 3 月 31 日（最大 2028 年 3 月 31 日）

【助成目標件数及び助成額】

総額 1,000 万円以内

- ・ 指定課題研究：1 件あたり 150 万円～250 万円（間接経費を含む）、採択件数 1 件～3 件
- ・ 自由課題研究：1 件あたり 50 万円～100 万円（間接経費を含む）、採択件数 5 件～10 件

※間接経費は 20%以内といたします。間接経費は申請前に各所属機関の担当者様にご確認ください。

※一般寄付、奨学寄付、委託研究または共同研究など、研究助成金としての受け入れができない場合、本助成の対象外となり、契約締結ができないため、事前に所属機関にご確認ください。

【締切日】

2025 年 11 月 10 日（月） （必着）

【選考】

書類選考及び選考委員会により、採否を決定いたします。

選考委員長

中村 洋（慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授）

選考委員

伊藤 由希子（慶應義塾大学大学院商学研究科 教授）

印南 一路（慶應義塾大学 名誉教授）

岡田 羊祐（成城大学社会イノベーション学部 教授）

小柳 智義（京都大学医学部附属病院 特定教授）

益山 光一（東京薬科大学薬学部薬事関係法規研究室 教授）

宮田 俊男（早稲田大学理工学術院総合研究所研究院 客員教授）

康永 秀生（東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学 教授）

渡邊 裕司（浜松医科大学 学長）

（敬称略、50 音順）

【2025 年度研究者支援・助成に係る公募要項に関する問い合わせ先】

日本製薬工業協会 研究者支援・助成に係る公募 事務局

Email : UN_6606.group@jri.co.jp

問い合わせ時には、「研究者支援・助成に係る公募」であることを明記してください。

以上